

亀岡市教育研究所 所報



第 35 号
平成29年3月28日発行
亀岡市教育研究所
亀岡市宮前町神前長野15番地
Tel (0771)26-3916代表 難波修一郎
Fax (0771)26-7031
E-mail kameoka-center@kyoto-be.ne.jp

平成28年度の亀岡市教育研究所は、保幼小中学校の先生方、保護者、地元企業、市民の皆様のご理解とご協力により亀岡市教育振興基本計画の具体化のための新たな一歩を踏み出すことができました。

教職員研修において、教育振興基本計画数値目標である講座開設52講座(目標50講座)、受講者数約2,000人(目標1,800人)と大きく上回ることができました。これは亀岡市の教育課題(学力向上・生徒指導の充実・小中一貫教育の進展、かめおか学等)に特化し、計画的な人材育成講座を実施してきたこと、亀岡市の教育研修センターとしての役割が幅広く教職員に認知され浸透してきていると実感しています。

次に、「地域ふれあいサイエンスフェスタ2016」は21回を迎え、全ブース数64、2ステージを実施し来場者数約4,500人以上と過去最大規模で開催することができました。これは昨年からラジオ放送や自治会を通じての回覧等新たな広報活動が結実した結果と考えています。

今後も亀岡市教育研究所の取組を保護者、市民の皆様幅広く知っていただけるよう事業内容についての広報活動にも努力したいと思っています。「教育研究所ホームページ」(<http://www.jh.city.kameoka.kyoto.jp/edulabo/index.html>)にも本研究所の取組を詳しく載せています。是非ともご覧下さい。

平成29年3月 亀岡市教育研究所所長 難波修一郎

1 教職員研修

今年度も、教職員研修の基本として、本研究所が持つ「学校支援センター」としての機能を更に充実させ、亀岡市教育委員会が「亀岡市教育振興基本計画～かめおか教育プラン～」に示している「ともに学び ともに育ち ともに生きる かめおかの教育の創造」の具体化を目指して、次の研修方針を設定して研修を進めてきました。

- 1 本市における幼児・児童・生徒の実態や教育内容に即した教育課題を適時適切にとらえた研修。
- 2 次代の亀岡市の教育を担う教職員の資質と指導力の向上、教育財産の継承を中心的に捉えた人材育成や職務を遂行する力の向上を図る研修
- 3 幼児・児童・生徒の育ちや学びの連続性に着目した校種間・研究組織間の接続と連携を図るための研修

以上の研修方針に基づき、講座形式も講義方式から双方向参加型・体験型・ゼミ型等多様な形式で実施し、研究所内だけでなく出前講座等にも積極的に取り組んできました。

また、京都府教育委員会の人材育成に対応した講座設定等新たに取り組んだ研修講座も設定しました。



教育講演会



かめおか学Ⅱ講座

講座数・受講者数の推移

	H23	H24	H25	H26	H27	H28
講座数	42	46	48	47	61	52
受講者	1274	1539	1696	1883	2153	1991

講座運営も、授業等学校運営にできるだけ影響を与えない15時15分開催の形が定着しました。

今年度の講座には、大阪大学大学院高田一宏准教授、京都学園大学友松勝之講師、龍谷大学政策学部白石克孝教授と大石尚子准教授、文部科学省初等中等局教育課程課澤田浩一教科調査官、京都丹波湯浅吉則人材育成アドバイザー、児童養護施設青葉学園山西雅洋総括主任、NPO法人イー・エルダー藤田裕司氏、精華町立精北小学校古川覚教諭、京田辺市立薪小学校太田明美教諭、立命館大学・京都教育大学田緑真弓講師、総務省近畿総合通信局電気通信事業課原彰宏課長、亀岡市まちづくり推進部土木管理課仲田丞治課長、京都府総合教育センター及び北部研修所の研究主事兼指導主事の皆様、京都府南丹教育局西村文則教育局長、指導主事の皆様、市内小中学校の校長先生をはじめ多くの教員の皆様、そして田中太郎教育長、白波瀬和彦教育部次長をはじめ本市指導主事の皆様に講師としてお世話になりました。共催講座開設については、亀岡市小中校長会をはじめ亀岡市保育幼児教育研究協議会、亀岡市立保育所特別支援保育研究会、亀岡市小学校教育研究会、亀岡市中学校教育研究会、小中学校教務主任会の各研究会にご協力いただきました。

2 調査・研究

亀岡市における今日的な教育課題や時代の要請に呼応した学校教育活動を支援するために、本年度は算数・数学科及び外国語活動・英語科について、小中連携の在り方や教職員の指導力の育成をテーマに研究協力校とともに学力・指導力向上に向けた方途を探ってきました。

中学校の教員が小学校の指導内容と指導方法を知り、逆に小学校の教員が中学校の指導内容と指導方法を知ることが、指導内容の効率化を図るだけでなく、指導方法の工夫改善、学力向上につながります。また生徒指導面においても9年間の連続した指導が可能となり、中1ギャップの解消にも効果が見られます。さらにこの調査研究の成果を研修等の機会を広めることを通して、市内教職員の人材育成と本市における教育資産の継承に努めてきました。

(1) 連携型小中一貫教育算数・数学科研究

研究テーマ 「保小中連携による算数・数学科の学力向上の取組」

亀岡市西部ブロックにおいて、算数・数学の9年間のカリキュラムによる学習指導に加えて、学力向上を踏まえ、ブロックでの共通した取組や方向性を一致させた実践を進めてきました。

- (1) 保育所も交えて西部地域学力向上担当者会を開催し、保育所から中学校卒業時の学力を見据えて、課題の共有化を図りながら学力定着に向けての継続した取組を行った。
- (2) 昨年度作成した各領域の9年間のカリキュラムをもとに実践を進め、カリキュラムの検証を行った。
- (3) 「かめもん西部地区版」の効果は効果的な活用で基礎学力の定着を図るとともに、問題内容の充実のために検討検証を行った。
- (4) 小学校1年生の授業参観、中学校教員による小学校6年生の授業など、授業を通して、算数・数学科の研究を行った。

(2) 小中連携による外国語・英語科研究

研究テーマ 「外国語活動・英語科を見据えた小中学校間の連携の在り方について」

平成32年度より完全実施となる英語教育に向けた小中連携の在り方や教職員の指導力の育成について、研究協力校における教職員間の情報共有を中心として研究を進めてきました。

- (1) 小中学校における外国語教育の現状や小中連携の課題について聞き取りを行い、現場の課題として見えてきたことを整理した。
- (2) 小学校英語にて導入される3つのポイントを視点を持ち、小学6年・中学1年の外国語授業を相互に参観し、「読む」「書く」の指導内容を効果的に中学校の言語活動に繋ぐ方策について情報交換を進めた。
- (3) 英語を軸にして校種間をつなぐ教職員間の情報交換の場を設定することにより、外国語教育を連携して進めて行くための道筋について検討を進めた。



中学校英語公開授業

(3) 問題をかかえるこども等の自立支援事業についての調査研究

研究テーマ 「小中学校間及び関係機関等との情報・行動連携による

不登校児童生徒への組織的な支援の在り方」

本年度は、これまでの研究成果でもある児童生徒のアセスメント票を活用しながら、小中学校間をつなぐ情報・行動連携による児童生徒支援体制の構築と、学校、関係機関連携による効果的な児童生徒支援の在り方について、研究協力校を委嘱し事例を通して研究を進めてきました。

特に、情報や行動の連携の柱として児童生徒アセスメント票を活用した連携会議を位置づけ、児童生徒の背景にある課題やその都度の支援目標を機関間で共有して取り組むとともに、学校、関係機関がそれぞれ持つ役割や機能を相互に活かしながら支援を進める効果について検証を進めてきました。

(4) 自主研究グループによる調査研究

今年度は、2グループの自主研究グループが登録されました。

- ① 指導上特別な配慮を要する子どもへのサポート研究会:「子どもの発達の道筋について」と題して千代川小学校の黒木律子校長を講師に招いて講演会を開催しました。
- ② 亀岡教育課程研究会:京都府総合教育センター企画研究部長の古谷一樹氏を講師に招き、「コミュニケーションを見直し、人材育成に役立てる」と題して、協働につながるコミュニケーションとしての「対話」、特に「聴く」という内容に視点を当てて、教師自身の聴く力を高めるための留意点について学ぶ事ができました。

3 地域ふれあいサイエンスフェスタ2016の開催

11月26日(土)、ガレリアかめおかを会場に21回目のサイエンスフェスタを開催しました。400人を越えるボランティアの皆さんのご協力で約4,500人を上回る多くの親子・市民の皆様にご来場いただきました。地域の企業、大学、高校、中学校、小学校、市民ボランティアなどの協力を得て、「産・官・学」協働で子ども達に様々な角度から科学のおもしろさ、地元企業からの「本物体験」等、また自分で工夫をして記録を伸ばす「チャレンジコーナー」など、様々なブースを提供していただき全体で64ブース+2ステージで開催できました。

どのブースも盛況で来年も是非参加したいといった声や時間延長を望む声などを多く聞くことができました。

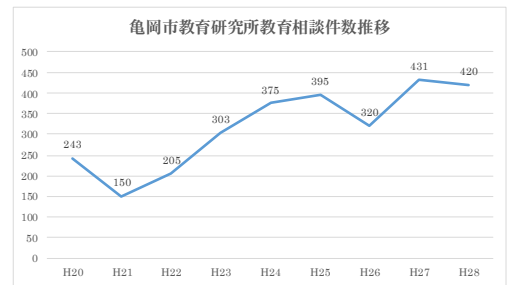
 <p>テレビ石や光ファイバー スコープで観察してみよう 〔洛北高校・京都大学〕</p>	 <p>分子模型を作ってみよう！ 〔須知高等学校〕</p>	 <p>からだの不思議～聴いてみよう！ 測ってみよう！心臓の働き 〔京都聖カタリナ高等学校〕</p>	 <p>野菜の色を取りだそう！ 〔京都府農林水産技術センター〕</p>	 <p>環境にやさしいスライムを 作ってみよう！ 〔ケニス株式会社〕</p>
 <p>風船ホバークラブ 〔京都教育大学 理学教育研究室〕</p>	 <p>あなたのジュニアスポーツトレンド度は？ コーディネーション能力を測る 〔京都学園大学健康医療学部〕</p>	 <p>ペンシルバルーン(マジック風船) で作ってみませんか！！ 〔市民ボランティア〕</p>	 <p>自由な発想やアイデアを 形にする発明コーナー 〔イズテック株式会社〕</p>	 <p>天まで届け紙とんぼ 〔学校園ボランティア〕</p>
 <p>エアロケット 〔学校園ボランティア〕</p>	 <p>空気砲で遊ぼう！ 〔京都市美山高等学校〕</p>	 <p>救急救命士の仕事を 体験してみよう！ 〔明治国際医療大学〕</p>	 <p>わかるよ！ふしぎ？サイエンス 〔亀岡市立図書館〕</p>	 <p>火 お こ し & 空飛ぶ種の科学～植物の移動方法～ 〔京都府立林業大学校〕</p>
 <p>微小貝、有孔虫の観察 〔北桑田高等学校〕</p>	 <p>ロボチャート～迷路をぬける プログラムをつくらう～ 〔鈴木楽器販売株式会社〕</p>	 <p>再生可能エネルギーと燃料電池の実験 〔(公社)京都技術士会 理科支援チーム〕</p>	 <p>発砲フィルムロケット 〔亀岡高等学校〕</p>	 <p>展示ブース 〔グンゼ株式会社〕</p>

※上記写真掲載は順不同

このほか、株式会社アイ・オーテック、NGO「青い地球21」、株式会社ガステック、京都エレクトロン株式会社、株式会社新興出版社啓林館、小城製菓株式会社、株式会社スプレッド、3Dpocket株式会社、センサテック株式会社、東京書籍株式会社、十倉康吉商店、株式会社七谷川木材工業社、株式会社ナリカ、ニチコン亀岡株式会社、株式会社ニッシン、株式会社ユーシン・ショウワ、ライズ株式会社、理研ビタミン株式会社、市内小中学校の教職員による学校ボランティア、南丹高等学校、農芸高等学校、園部高等学校・附属中学校、北桑田高等学校、京都学園大学バイオ環境学部、京都学園大学教職課程、京都医療科学大学、京都美術工芸大学、京都建築大学校、京都伝統工芸大学校、立命館大学、龍谷大学、3Dpocket株式会社、株式会社温水器センター、京都エレクトロン株式会社、グンゼ株式会社亀岡工場、株式会社スプレッド、十倉康吉商店、株式会社ユーシン・ショウワ、理研ビタミン株式会社京都工場、株式会社ガステック、株式会社新興出版社啓林館、ケニス株式会社、鈴木楽器販売株式会社、TOTO株式会社京都支店、株式会社ナリカ、ライズ株式会社、南丹高等学校地学部OB、南丹高等学校、農芸高等学校、須知高等学校、北桑田高等学校、桂高等学校、京都学園大学バイオ環境学部、京都医療科学大学、京都美術工芸大学、京都建築大学校、南丹教育局、南丹保健所、(公財)亀岡市環境事業公社、地球環境子ども村、京都府地球温暖化防止活動推進員、サイエンスフレンズ学習クラブにもお世話になりました。

4 教育相談

小学校・中学校在籍者の教育上の諸問題について、児童生徒、保護者、教職員を対象として教育相談を行ってきました。相談においては教育相談員と臨床心理士(スーパーバイザー)が専門的な立場から助言や援助を行い、心身ともに健全な児童生徒の育成をめざした支援ができました。今年度は延べ420件(3月24日現在)の相談を行いました。それぞれのケースについて必要に応じて学校や行政機関、医療機関とも連携をしながら相談活動を進めました。



5 適応指導教室

不登校の児童生徒を対象に「心の居場所」をつくり、集団への適応と学校生活への復帰をめざして、「やまびこ教室」(小学生)、「ふれ愛教室」(中学生)の2つの適応指導教室を教育研究所に開設しています。集団への適応力の向上により学校復帰につなげたり、進路実現をめざしたりしました。

日々の活動では屋上での野菜の栽培、ボランティアのご協力によるクラフト教室や読みきかせ等々を開催しました。ボランティアの方々や通級生同士の交流を通して児童生徒同士の「絆づくりの場」となりました。



適応指導教室での読書ボランティアによる読み聞かせの様子

6 学習活動支援

(1) サイエンスフレンズ学習クラブや夏休み親子で理科探求応援教室

サイエンスフレンズ学習クラブは、小4生から中3生を対象に33名のクラブ員数で、年間6回実施しました。主として実験やものづくりの活動の他、ニチコン亀岡株式会社技術部技術一課森田千晴課長と同課の森悠子さんのご協力で最新のコンデンサー技術についても学ぶことができました。

理科探求応援教室では夏休み期間を利用して、日頃から気になっている不思議や疑問等を親子で科学的に探求しました。京都教育大学の村上忠幸教授や大学院生から実験や研究へのアドバイスをいただき、参加の親子は積極的に探求に取り組むことができました。うち1回は京都教育大学のキャンパスで実施し、見学や大学食堂での食事等、キャリア教育としても意義がありました。



第1回 サイエンスフレンズ学習クラブ
「巨大振り子でサイエンス」



第3回 夏休み探求応援教室
「まとめかたについて」

(2) サイエンス出前講座

研究所内が所有するサイエンスに関する教材資産を学校やPTA・子ども会行事などで活用しながら、児童生徒の理科学習に対する興味・関心を高めることを目的として実施しました。本年度は本梅小学校5年(計約15名)、蒔田野小学校(約90名)、東部文化センター(約50名)において、教科とに関連付けながら、科学に対して興味関心を高めるような実験や活動を行いました。



サイエンス出前講座
「静電気バチバチサイエンス」

7 施設、教育用図書、教育機器の活用

本研究所在所が所管する研修室は、研修講座だけでなく市内の保・幼・小・中学校及び研究会による利用が進みました。機器ではポスタープリンターや製本機、プロジェクターの活用が多くありました。本年度導入した2色印刷が可能な印刷機を利用してもらうことができます。市内保幼小中教職員、教育関係の研究団体が手軽にしかも有効に活用できる学校支援センターとしての役割を果たすことができました。

亀岡市教育研究所理科備品・教育用図書の貸出、出前講座について

亀岡市教育研究所では学校支援センターとしての役割を果たすべく、研究所が持つ教育資産をできる限り活用していただくために理科備品や教育参考図書を整理し、貸出をしています。

○理科備品については分野ごとに分類、その他サイエンスフェスタで使用した「おもしろ実験集」もつけています。

○教育関係図書も分野ごとに分類「一般書」から「専門書」まで貸し出しにに応じられるようにしています。

* 但し、当所で閲覧していただく本もありますのでお問い合わせください。

○各校で実施される校内研修やPTA活動への出前講座等児童生徒、保護者を対象にした学習活動支援も行います。気軽にお問い合わせください。